

第316回

日文研フォーラム

講師◎ロバートヘリヤー ウェイクフォレスト大学歴史学科(米国) 准教授/日文研外国人研究員

「Japan Teaブランド」の構築——太平洋を渡った緑茶

コメンテーター◎熊倉功夫 MIHOMUSEUM館長

司会◎佐野真由子 日文研 准教授

2017年12月12日(火) 十八時三十分〜二十時三十分(開場十八時十分頃)

ハートピア京都3階大会議室 入場無料・先着一八〇名まで

申込不要(十七時四十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies

The 316th Nichibunken Forum

主催:大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



日文研30周年
NICHIBUNKEN 30TH ANNIVERSARY

日文研フォーラム

「Japan Tea ブランド」の構築

— 太平洋を渡った緑茶

Making 'Japan Tea':

The Transpacific Journey of Green Tea

明治時代、緑茶が日本の主力輸出品であったことはよく知られています。実は、その八割はアメリカに輸出されていました。ちなみに、当時のアメリカでは主に緑茶が消費されていました。

本講演では、日本の商人たちがいかにしてアメリカ市場向けに「Japan Teaブランド」を構築したか、その努力と挑戦の過程を考察します。

さらに、そのブランドは翻って、昭和初期の日本における緑茶の消費パターンに大きな影響を与えることになりました。その側面についてもご紹介したいと思います。

講師 ロバート ヘリヤー

ウェイク・フォレスト大学歴史学科(米国) 准教授
日文研 外国人研究員

1989年クレアモント・マッケナ大学学士号取得(歴史/哲学、政治、経済プログラム)、1995年スタンフォード大学大学院にて修士号取得(文学、歴史)、2001年スタンフォード大学大学院にて博士号取得(文学)。アレゲニー大学助教授、ライシャワー日本研究所、ハーバード大学博士研究員を経て、現在、国際日本文化研究センター外国人研究員及びウェイク・フォレスト大学准教授を併任。専攻分野は近世、近代日本史。

主な著作に*Defining Engagement: Japan and Global Contexts, 1640-1868*, Harvard University Asia Center, 2009(『対外関係の定義——近世日本をめぐる世界環境』、ハーバード大学アジアセンター、2009)がある。

コメンテーター 熊倉 功夫 MIHO MUSEUM 館長



1943年東京生まれ。東京教育大学卒業。文学博士。筑波大学教授、国立民族学博物館教授、林原美術館館長、静岡文化芸術大学学長などを歴任。現職は、MIHO MUSEUM(ミホ ミュージアム)館長、国立民族学博物館名誉教授、和食文化国民会議名誉会長。

主な著書に『日本料理の歴史』(吉川弘文館、2007)、『茶の湯といけばなの歴史 日本の生活文化』(左右社、2009)、『後水尾天皇』(中央公論新社、2010)、『文化としてのマナー』(岩波書店、1999)、『現代語訳 南方録』(中央公論新社、2009)、『茶の湯日和 うんちくに遊ぶ』(里文出版、2012)、『日本人のこころの言葉 千利休』(創元社、2015)、『熊倉功夫著作集』(思文閣出版、2016年~17年)などがある。2013年 中日文化賞受賞。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、月1回のペースで、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2

TEL: 075-335-2078

<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>

京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄丸丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「丸丸丸太町」バス停下車

第317回 日文研フォーラム 2018年1月9日(火) 14:00~16:00

講師：金 容儀 全南大学校(韓国) 日本文化研究センター 所長 / 日文研 外国人研究員

コメンテーター：荒木 浩 日文研 教授